



笑註烈子
四



遠13
1730
4



門 13
箱 1730
卷 4

異国 風俗 笑註烈子卷之四

物變化國

葉書云小海國の名皆大なり予と上ふくふをわかにかたての字とくはつて大妻とよみしかはしむと史をもふまをてハハロー

小野小所 花乃色 かくうらふらう 小と縁せり
美人爲 黄土 况粉代 假名と 杜子美々 吟せり
詩も老 陰人と 流せ 義乃 姿も 忽少 秋の 高と 載とき
枯野の 州と あり 由一 理ふ 也 烈子ハ 變少 平ハ 汎と 旅
路の 安ふ 月 日 送り 乱盤 七 段 形色 樵幸 あり
小 變が 杖が 形 字 あり かねを 命ふ 高う 秀乃 糸一 て 飛ハ
葉書云 小列 御寇 瓜 小 來 云 也
作る 一 此を 乃 乃 杉 葉 高 小 變 化 の 種 と 教 多 々
と 計 慮 う 以 烈 子 子 大 畧 也 教 少 夫 下 地 六

木村

木村

合し月陽陽の年。春の暖居る。夏の間も。と波
夏のまもま。土解のほほ。と地。一屋居る。秋も。波り
秋のれきせい。長し。そのさき。と地。一そのさき。波り
平りて。波暖居る。と変を。おれ。ま。のま。い。ふ。波化
ま。い。ふ。の。り。ハ。大方。と。曰。波。地。の。肩。小
生。ぞ。地。と。変。化。教。多。一。地。化。して。たり。と。あり。田。氣。化。て
如。鳥。と。か。り。花。記。月。令。一。燕。雀。海。川。小。て。蛤。と。あり。薯。蕷。煩
と。鱒。と。あり。狐。本。研。と。く。天。狗。と。變。一。江。南。の。橋。江。北
小。入。り。て。担。と。あり。ふ。の。足。と。あり。石。素。金。淫。雨。ふ。れ。を
ぬ。ハ。蛙。と。變。一。海。上。て。白。蛇。化。し。て。七。足。の。た。こ。し
り。出。来。羽。織。ま。る。し。て。醫。者。と。變。一。山。武。士。波。て

南蛮流の外科あり
薬をうぶふん。又。赤。色。を。一。て。段。階。者。ふ。も。取。る。と。一。所。方。ま。と。も。誹。諧。師。又。段。階。方。ま。と。も。変。を。知。れ。し。と。い。ふ。事。也。
以下外科は南蛮流の外科なり
小間物を又ハ截子とあり。頃。頃。買。ひ。一。極。変。し。て。幸
頭。持。と。あり。色。と。好。光。の。娘。極。と。蒸。て。過。君。せ。や。み。年
と。磨。て。姑。と。お。り。外。ハ。針。細。目。小。づ。波。化。の。標。紙
な。し。と。あり。ふ。も。洗。破。て。ふ。一。ふ。不。放。て。列。子
さ。ま。ち。と。絶。然。し。て。露。多。ふ。同。ひ。も。ハ。二。君子。ハ。せ。当
と。保。つ。勢。便。ハ。せ。ま。り。国。は。備。と。何。の。も。も。さ。り。と
や。と。い。し。我。は。赤。赤。と。あり。今。眼。前。不。疑。ハ。燕。雀。の。蛤。と
あり。と。あり。と。も。ね。ね。せ。せ。い。か。ひ。と。あり。三。月。雛。糸。小。は。り
あ。く。の。蛤。を。あ。り。救。え。れ。ど。外。是。也。有。本。を。多。る。紅。色。と。あり

てやの丸茶亭高月茶店小少なり蟹蛤貝年中々乃合料
とありて蹄碎一蛤貝あり一五百乃や二万位さひのふて
はらさざりて又雀とふるは年中中々の飼とる焼きとて
成人食ふおれは海川小なり雀のせきききき蛤のあ
りも疑を解ゆるは地味いふといふは唐咽喉を
とありて羽根づらひしく笑ていふは井の中を淡
と思ふ者小ハ慢とちハ海をゆるゆると古人のい
るなり小き一を挑て二をのさうりてをちと知て愛せ
るるる人ハ一丈四海皆同く吾不疑ひと免れど既
信ふハ汝も小きれて文子女也一者一名と中
といふ又夏子也とも持ぶるは乃頗るゆゑ人きは海川小

生むるほどの蛤は幾万位ゆかぬともたつて一は雀の足
ありと市判押たふ小雀も思ふなりといふれと云
のど小思ひをて本明の謝肇淩小五雜組といふる
書籍せりやせりち小け蛤といふものゝるるを蟹
があらふふりては多しの蛤の中ハ小ハ開く蟹は蛤
とれりといふれどたれハ別の種といふものぞ也どこの
とてありて我が国もあつてのやなり假令ハ我ハ我も平
年一島ハ平と古人のいりて一説もちりて小ハ唐も
のふたばをとりといふもりてとらりてと迷然に
凡ふるも古語又ハそのやの語は雅の語野郎の
語も外ハの語ありて一ふちりて昔年我父

那、後リ、付、王元と云々、大地儀乃人、拾、萬、
論、衡と云書と、の、世、の、中、小、の、凡、古、の、萬
と云、大、累、子と云、の、を、百、百と云、十と云、得、よ
と云、り、我、の、壽と云、年、と云、年、と云、年、
と云、久、と云、保、と云、の、と云、と云、後、令、の、後、理、
乃、の、後、今、今、の、後、も、の、也、の、り、
の、人、千、年、と云、の、の、の、の、の、
後、と云、も、也、也、也、也、也、也、也、
我、く、も、也、也、也、也、也、也、也、也、
し、も、也、也、也、也、也、也、也、也、
く、の、也、也、也、也、也、也、也、也、

今、を、か、一、我、の、才、性、を、よく、と、欲、と、も、
片、分、も、他、の、也、の、也、の、也、の、也、
我、が、本、の、付、は、世、の、日、也、也、也、也、
底、の、能、抑、小、敬、す、れ、也、也、也、也、
治、り、人、の、の、の、の、の、の、の、の、
と、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
と、依、て、也、也、也、也、也、也、也、也、
し、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
と、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

男わし信廉しのぶ人ひとなりてむこころ勢いきなりさくく大軍おほいなるとさうむむひや
年氏乃大敵おほいなると追退おひき猛威もういと一天いつてん四海よちうかい不おこ振びひ朝日あさひの軍ぐん
とぞれを花はなの人ひとあれどもま盛さかむ勢いきなりさ衰おち微ほろとすりよ
変化へんげしんハ雲くも津つグ来きたわて百回ひやくかい以もつ弗たづなま矢やとさうけ
して千ち二に言ことふりて死しす。あれ変化へんげのあふじはららく盛衰さかおち記き
又秩父ちちぶ以もつ弗たづなま患うれハ四相ししやうと倍ばい倍ばい倍ばい倍ばいの倍ばいあれとも
北條きたじょうもあつひおしこも矢や無射むしゃわて甲午こうん二に言ことふの対たい
死しせり。あれ智ちに勇ゆうても変化へんげのま子こ引ひりて訪まじり
ゆくこくぞぬけ変化へんげのことを微き細さいふはあれをそ俗ぞく人の
水みづ知しまもりあふくこれバ下くだ原げん孔子こうしの徒たハ天命てんめいと
稱しやう一いつ秋あき迦かハあふくひあふく前世ぜんぜの宿業しゆくごうと一いつ凡俗ばんぞくと一いつ

向むか夏なつ甲がら不ふたた時とき高たか利り身みとよ。あれくのことをハ皆みな変化へんげ
の狂くる軟なんなりといい厥あやくを露つゆハ川かへ邊べ不ふ氷ひ水みづで飲のみみ
は甲がらと固かたく。ことはあふくて羽う子こ鳥とりふふふ。元もと々々落おちちり
持物もつぶつの君子くんしくくんんとも秋あきあふく一いつの不ふ審しんゆゆ落おちちの
あふくあふくても変化へんげの物ものをおとくハ苦くるも恐おそも
法はふも邪よこしま法はふも假か罪ざい少すくなく者ものと一いつも秋あきくくらくくくくく
ゆくてはああ。ま変化へんげのああふくことはハ抑おさ角かくと苦くると一いつ
てもゆくつくふふああむむ又また恐おそむむても秋あき不ふ死しくくまま変化へんげと一いつ
ふて加か倍ばいひひああききららのことをあへへええ身み成なりぐぐまま筋すぢのこと飲のみ
ふふああのことをあれれ誰たれもも恐おそむむままのこと落おちちのこと一いつと一いつ
いいえどああれれふふちちとは生なまと一いつ糸いと希まれ相あひ方かたくと笑わらひひ

史し在ざい子し三さん日にち
六

糸と付之陣圓言の平治をうく頭を打揮て
いふ。やとよ君の石富はもろりあぐり荘子 蔭言
小井の串の蛙とトドがうく露がうく大海とを
しつされこれぞこれ古人乃教不天道ハ吾不樂
り又夫及ハ生と死とをの海ぞといふ生一も
そのえを身天地の間不物ぞめらるる造物と不
目不ええ思ひきき君の固不勅宣と云ふ不勅宣
と聖人賢者と不世後及書物と不伊觸書不
此して四海万もの様ともやれたる様の文言こよの
言不も変化と云ふののめぞと擇いんと云ふ
昔也と云ふ人ハも身安全と法入収て致ひあひきし舞

の帝のうく 鏡鏡と云う一人あれとも昔のを居る
り也と云ふ不法人ハ靡き従ひ舞遂不夫不変化と又
也と云ふ不人ハ天子あれども夏の桀王殷の討王のう
く身亡び法人あれども天不夫不不変化と
いふも身所觸書不従ふと背くも遠ひ光昔ハ宗
変化一也ハ不変化と云ふ 聖賢の書ハいふ不
及をいふ不もなり思と云ふも身所觸書中或何州紙
不も年くら物くも思向お替りあり 又天下の政を
扱る人大也と云ふなりひても身所觸書安全子孫也云
勢も不法人安ん世界ハ引て不條成あふも思所
代あれやと論ひ難セしと云ふも。云ふも没也匹夫



下後の大悪をたゞ放ておやいなむともいふ理の
白くぬ又まき悪き人のまきも久しうして子孫とも
おぼしめしとまのハ洋海理もいふ終州紙も見
たりもあえはまたり耶かくの申ふハ一冊がふハ
吾人の天下の家を治てこそ身安全あふぞ子孫
絶し〜治民礼せおぼしめし〜せも作りたおれ
せも作りたおれ〜平くは作り者も善と悪
との及理をも能知りて作りざる〜号も〜又
善と悪を〜悪とせよとふ〜作者のれは
西の事の人おてあ〜世信ふ〜ひと〜ふて
もや杆でも入れ〜九の理ふ〜八の理ふ

脱湯又ハ水取ま湯てもの内を採りあも無病人
病人ハ〜病〜人の死に存じ〜夫も〜
秋友房も君ふ〜夫も〜治り〜の〜
と下を存不初〜〜〜
君子の心放〜感嘆〜して〜年の功〜
乃の〜と〜洋不治〜の〜
又の〜ひ〜人生して〜善とも悪とも人の洋
〜〜〜海ふ〜不〜不〜不〜
〜年老て死〜と〜入〜化も〜
〜不も方〜危り〜也〜
〜不も方〜危り〜也〜

今こそ世に世とすを感し一死人生して之を母と父母の
懐小ぶる乳房小せぐり腹をあやせうちをん
空に寂しくなれともなむそのうちふもしり変化
ありし更な日をもあふほひて葡萄の化してまき
とふり小懐し。ちえ無歯が生。啼ぶけり。光あふら
ら母とのぶ。かこふもはせきく。あふ変化し。なれぬ
也。ぞろ。か。あ。ふ。ふ。変化し。さ。せ。八。ふ。あ。ら。と
今年をいじ。歯ハ。あ。て。新。う。歯。せ。生。ド。ぞ。れ。ふ
十。は。ふ。あ。ら。と。その。び。う。は。き。て。あ。ふ。は。ら。あ。れ。と
内。歯。素。潔。二。七。二。八。川。て。天。突。也。と。え。る。あり。
ぞ。れ。ふ。十。は。ふ。あ。ら。と。り。坂。二。十。は。ふ。あ。ら。と。り。坂。ふ。ら。う。て

後にもなく蓮靛の肉却兩の目皆小皺がうらひうら
り変化の及り。追ね。因。ま。ふ。羊。と。お。せ。て。も。淋。雨。し。を
書。う。う。が。ん。明。の。王。元。美。ふ。り。つ。り。も。と。ふ。書。集
う。の。の。一。の。あ。化。れ。も。う。あ。ん。ば。く。も。う。ら。ひ
て。後。不。入。後。不。親。と。ふ。う。と。と。あ。あ。あ。地。も。い
た。じ。の。か。う。う。う。ひ。の。か。う。う。も。う。一。中。村。ま。子。が。七
変化。と。ま。り。あ。い。ま。多。多。杉。の。ひ。び。も。も。う。り。い。れ。を
P。さ。せ。と。も。人。乃。後。ま。ん。の。と。お。ま。屠。る。ら。う。く
明。細。小。書。載。し。る。及。ば。せ。り。数。き。り。何。し。と
山。の。州。の。い。し。り。一。老。夫。と。川。の。渡。雁。か。ゆ。れ。た。老
婦。と。得。と。い。ゆ。所。聞。て。人。の。身。神。後。唐。乃。書。在

何れと云はれども、
 の別取りと云はれども、
 て顔小鶏皮ありと云ふ人もあり、
 又ハ周の穆王ハ
 一ハ一ハ兼慈帝と云ふも、
 ナル下ニテ布多クあり、
 たりとも、
 小カクと云ふも、
 君命ハ、
 野邊ニテ、

南方海路ハ、
 小波の流小波セ、
 大酒公評小曰古人の語ハ、
 幼カク老年ハ、
 とも、
 小カク、
 小信仰セ、
 の美く、

いよの世一もなき日月の中かいつともには版
と書ふばふい影の影一あんとしりけりしひ
日と流不遊いさしり白髪ふあるをゆめあやみ
と下ふあうての死を死せん大馬も方海
あり方物の具とふちのふてはけじ其の禹王
滅生あがして聖智聰才乃人あれども一寸乃
目せかみして大業せ成就を居ひ末世ふ身と
乃氏とた徳の廣大保厚なるせりかて仰き
はてまつるゑもせ流や平人なる小放て二分一厘の日
せりみて悔急ゆるんぞ何トよふ生れ
日一も死あ人ふも造物不変化と又驚

草木変化と種く種方の差別ゆめはゆれも
人し代か人こと安ふさるゑいふも人面のお遠
あれども中ハ騒々乃お遠ゆり明けニッ相
根者同くふおふといえども鳳凰と雀とあそ
何り四ッの足何りて何トよふもも麒麟と
氣とのまら何りあつたれど人らゆめどろくとた
人のりりさうけは洋小珠も厚きふゆめ人の度量
して洋ハくふ洋屋れども予がふおはく夫
乃日根強く死くしてあむいさ何れ
も及ふなきゆめんハ毎日のあつる屋
ふく乃誠小一日の計ハ長ふゆり二年の計ハ

春ふりり一生し計ハ勤ふりり一家の計ハ秋
 小つりりとあまふるれは乃ど何りも半生して勤い
 詩経小日夜不懈と云。又古歌ふふと云
 月日せちう海一 年の思はんほども
 恥しと何りも懈怠と戒りしを又存乃
 蛤とあつとふりり五雜組とて海より洋うつとい
 えども中が即か若くは海をいへりて管等
 天と雲不識とまふれどさあいめんといふ古人の燕
 雀といふは燕雀といふ鳥といふがうらやまふ
 燕雀といふ鳥を海鳥の志と云ふんといふも
 小鳥といふと燕雀といふは又小對文と徹文

とふりりして若後の又春ふりりてまると雀の
 字とまめと訓一燕の字ではまめと訓せは
 あまふりりもつれどまの蛤とつれどハ燕雀といふ
 どもを海と小鳥海川ふ入りて蛤とつれと云ふ
 唐の世小大物と称さ一李善が説ふ雀
 小鳥の惣名とつれはまふて九明なりまのつれ
 いふ些細なりを識せふたふれどもつれ
 十と知り十と知りて百と云ふりつれは幼字
 の家と発し種小もとふれつれを也

夙國 天柱列子卷之四

